

# 伊丹福音ルーテル教会 待降節第一主日礼拝のしおり

## 2022年11月27日

### 前奏

#### アドヴェント讃美歌 21.242 番

主を待ち望むアドヴェント、最初の蝋燭 灯そう  
主が道を備えられた この時を守ろう 主の民よ、喜べ。主は近い。

#### 招きのことば：詩編 119 編 1-8 節

いかに幸いなことでしょうか まったき道を踏み、主の律法に歩む人は。  
いかに幸いなことでしょうか 主の定めを守り 心を尽くしてそれを尋ね求める人は。  
彼らは決して不正を行わず 主の道を歩みます。  
あなたは仰せになりました あなたの命令を固く守るように、と。  
わたしの道が確かになることを願います あなたの掟を守るために。  
そうならば、あなたのどの戒めに照らしても 恥じ入ることがないでしょう。  
あなたの正しい裁きを学び まっすぐな心であなたに感謝します。  
あなたの掟を守ります。どうか、お見捨てにならないでください。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

### 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは思いがけない時に苦しみに陥れられることがあります。人からの痛み、自分の体の変調、自然災害や事故など、心の用意のないときにおおきな衝撃を受けることが起こります。また、どんなに備えていても、耐えきれない痛みもあります。神様、どうぞ私たちを助けてください。イエス様は思いがけないときに来てくださる、とおっしゃいました。私たちが自分の知恵や力に頼らないで、来てくださるイエス様を待ち望む者になしてください。そして、この一週間も、どんな痛みや悲しみに会っても、イエス様にあって平安と将来と希望をもって歩むことができるように、私たちをあなたのみ言葉によって励まし強めてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

### 使徒書朗読：ローマ人への手紙 13章 11-14節

更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません。

### 福音書朗読：マタイによる福音書 24章 36-44節

「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。だから、目を覚ましていなさい。

いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

### 讚美歌 97 番

- 1 朝日は昇りて 世を照らせり、暗きにすむ人 来たり 仰げ  
知恵に富みたる主 世にいでたり、愚かなる人は 来たり 学べ
- 2 **力にみつる主 世にのぞめり、かよわき人々 来たり たのめ**  
**安きを賜う主 世にくだれり、苦しめる人は 来たり 受けよ**
- 3 救いを賜う主 世に生まれぬ、高きも低きも 来たり いわえ  
天地(あめつち)知らず主 世にあらわる、よろずの物みな どよみ歌え **アーメン**

### 説教：「思いがけないときに来る」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

待降節の第一主日です。蠟燭を四本ともしたら、次の日曜日がクリスマスです。このようにしてクリスマスを待ち望みます。楽しみにします。用意をします。心を向けます。

なぜクリスマスを待ち望むのでしょうか。ほかのお祝いの日のように、その日が来たらお祝いしたらよいのではないのでしょうか。なぜ四週間も前から教会をあげてクリスマスを待ち望むのでしょうか。

それは第一に、最初のクリスマスが待ち望まれていなかったからです。クリスマスの物語を思い起こしてください。救い主が来られることを民は知っていたはずですが。しかしどうでしょうか。イエス様がお生まれになったとき、だれも喜んで迎えませんでした。イエス様がお生まれになったクリスマスは、私たち人間の救いを願っておられる神様の喜びの日でした。しかし民は、イエス様のお誕生を知らず、迎えず、祝うことをしませんでした。

イエス様はベツレヘムの宿屋に泊まれず、馬小屋に生まれました。町の人々はイエス様を迎えませんでした。イエス様のところに来た人と言えば、町の外の野原で天使の声を聞いた羊飼いでした。王様も神殿の人たちも来ませんでした。来たのは遠くの国で救い主の誕生を知って旅してきた博士たちでした。救い主の誕生を知ったヘロデ王は、イエス様を殺そうとしました。民はイエス様のお誕生を知らず、迎えず、祝うことをしませんでした。

あなたはいかがでしょうか。イエス様は待ち望まれても、そうでなくても、神様の約束としてきてくださいました。お生まれくださいました。あなたは今年も歴史の中に神様がその独り子を私たちに救うために人としてお送りくださったクリスマス、喜びをもって待ち望んでおられますか。それとも、年中行事のひとつとしてなんの期待も喜びもなく、冷たい心でお迎えになりますか。あるいは年末恒例の風物詩として、意味もなくお祭りムードを楽しもうとしているだけでしょうか。クリスマスは神様が歴史をかけた愛と憐みを実現してくださった日です。神様が、大切な、愛する独り子であるイエス様を、私たちの罪を赦して神様の子どもとしてくださるために、すなわち、きよい生涯を歩み、十字架につけられて殺され、よみがえってくださるために、人としてお送りくださった日なのです。クリスマスは、神様が私たちに赦しといのちを与えるために、救い主を実際に世に生まれさせてくださった約束の実現の日です。私たちひとりひとはクリスマスの意味を、はたしてよく味わっているでしょうか。私たちが待降節として前もってイエス様の誕生を覚えて用意をするのは、感謝と期待をもってイエス様のお誕生をお祝いする心を神様に整えていただくためです。今年のクリスマスは、共に目を覚まして、クリスマスの意味をわきまえて、心から待ち望みましょう。

なぜクリスマスを待ち望むのでしょうか。それは第二に、イエス様はもう一度世の終わりに私たちのところに来てくださると言われたからです。イエス様が私たちの救いのために来てくださったのがクリスマスです。そしてイエス様はもう一度、世の終わりに私たちを裁くために来られます。マタイによる福音書24章30節にあるように、人の子であるイエス様が、世の終わりに、今度は大いなる力と栄光を帯びて、天の雲に乗って来て下さいます。そのとき、この時代は過ぎ去り、天地は滅びます。罪深い人々はそこで神様の正しい裁きに服します。自分中心でわがままな心で、神様から心離れていた人々は、神様の恵みのない冷たい暗闇で永遠に裁かれます。そして、同じく自己中心でわがままであったのに、自分の資格や努力によってではなく、神様がお与えくださった救い主イエス様を信じて洗礼にあずかった人は、神様がその人の罪のためにイエス様を既に裁いてくださっているのです。最後の裁きのときには永遠のいのちをいただきます。

では世の終わりはいつ来るのでしょうか。どのように待ち望めばよいのでしょうか。その日はその時は誰も知らない、と記されています。天使たちも知りません。御子イエス様ご自身もご存じない、とさえ記されています。父なる神様だけがご存じです。そのときは誰も知らない、ということがいくつかのことに例えられています。寝静まった家に泥棒が入るときのように、前もっていつかわからないとき、目を覚ましていなければわからないときにイエス様が来られます。そのようにいつ、自分の主人であるイエス様がお帰りになられるか、私たちに知らされておりません。旧約聖書のノアの箱舟のときもそうでした。雨が降り始めて全世界が洪水になって、箱舟に乗ったノアの家族以外は一人残らず滅ぼされてしまいました。そのときまで人々は普段の生活をしていました。いつイエス様が再び来てくださるのか、知らされていないので、私たちは普段から、それぞれに、また教会として用意したいものです。

世の終わりにイエス様が再び来てくださいます。普段からどのように用意すればよいのでしょうか。イエス様がクリスマスに来てくださったときを振り返りましょう。イエス様は何のために来てくださいましたか。私たちが神の子にするためでした。罪深い私たちはそのままでは裁かれて滅びるところでした。しかしイエス様がそのご生涯と十字架の死とよみがえりによって、私たちの罪を正しく赦し、罪と悪魔と死の力に打ち勝ってくださいました。私たちはクリスマスにお生まれくださったイエス様のすばらしい御わざのゆえに、洗礼によって、赦しといのちを与えられました。そんな私たちは普段から、福音のみ言葉を聴き、私たちのために流され裂かれたイエス様の血と体にあずかる聖餐のたびに、神の子とされたたしかさを新たにされます。残された人生の普段の日々を神様と隣人を愛して歩み、イエス様の再び来てくださることをうめきをもって待ち望みます。イエス様はもう一度、世の終わりに私たちのところに裁き主として来てくださいます。待降節のはじまった今、私たちは私たちの救い主であるイエス様がお生まれくださったクリスマスの日を待ち望みます。そして赦された者として、あたらしくされた者として、やがてもう一度世の終わりに来てくださるイエス様を待ち望むのです。

なぜクリスマスを待ち望むのでしょうか。それは第三に、いつも目を覚まして、いつ主が来てくださってもよいように用意をして待つためです。そうはいっても、いつも目を覚ましていることはたやすいことではありません。マタイによる福音書26章36節以下のところで、ゲッセマネの園で起こったことが記されています。十字架を前にゲッセマネの園で弟子たちと共に祈られたイエス様は、弟子たちが祈りを続けることができないで途中から眠りこけてしまう姿をご覧になりました。弟子たちは申し訳なくてどう申し開きをしたらよいか困りました。けれども、どうしたことか、三度も同じように寝てしまったのです。いつも目を覚まして、いつ主が来てくださってもよいように用意をすることは大切です。しかし、そうしよう、と思っていた弟子たちは、そうできませんでした。私たちにも、祈ることは大切だとよく理解して、心からそう思っている、実際には心が動かず、そうできないことはないのでしょうか。イエス様はお弟子たちに「心は燃えていても体は弱い」と言われました。わかっているけれども実行できないことをイエス様はご存じです。また「わたしと一緒に目をさまして祈っていなさい」とおっしゃいました。目を覚ましていることができない私たちのために、イエス様は寝ないで、苦しみもだえて祈ってくださったのです。自分の弱さや自己中心に気づかせていただいたら、私を憐れんでください、とイエス様を信頼して仰ぎましょう。

私たちはイエス様が教えてくださった「主の祈り」を祈ります。その中で「御国を来たらせ給え」と祈っています。神様、あなたの御国を来たらせてください、と祈って、イエス様が再び来るようにと祈り願っています。実はイエス様は祈る前に既に来てくださっています。この祈りはイエス様がわたしのところにも来てくださるように祈るのです。よみがえられたイエス様は、マタイによる福音書28章の最後にお約束くださっているように、世のおわりまでいつも私たちと共にいてくださいます。今日も福音の説教の語られているところに来られています。

洗礼においてあなたとひとつとなってくださいました。また、聖餐にあずかるたびにイエス様が来てくださって、あなたは口からイエス様にあずかっています。既に来てくださっているイエス様に、どうぞ私たちのところにも、神の御国が来るように、と祈るのです。

私たちは罪の誘惑や試練のなかで、イエス様を無視します。神様をおそれず、愛さず、信頼しないで暮らしてしまいます。今週も、生活のなかでうれしいことがあっても神様に感謝することを忘れ、苦しいことがあっても神様に祈ることを忘れます。今週も私たちがイエス様によって遣わされているところで暮らします。家庭や、職場や社会、そしてこの教会の交わりの中で暮らします。日々起こるできごとの中で、まるで神様がおられないような、この世での人との関係だけの気持ちで、期待したり心配したりして生きていることが多いのではないのでしょうか。さらにそのようになっていることにも気づかずに、無自覚に神様から離れて生きている、つまり、目を覚ましていないで、用意ができていないままで暮らしてしまいます。私たちは人間同士、互いに罪深い人々の間に、妥協したり、威圧したり、服従したりして生きています。競争や妬みや不信感や不正や暴力で傷つけあって生きています。そして自分に与えられた使命にも中途半端な気持ちで、運と人に任せて生きています。

でもご覧ください。弟子たちが何度も眠りこけてしまったことをご覧になったイエス様は、目を覚まし続け用意をして待つことのできないそのお弟子たちに失望して愛想をつかしてしまわれたのでしょうか。いえ、イエス様はお弟子たちを罪に定めるために来られたのではありませんでした。また彼らに自分の努力で起きていなさい、と激励するためにこられたのでもありませんでした。むしろそのお弟子たちのために、そのあとゲッセマネの園でとらえられ、十字架にかかって死んでくださいました。そして三日目によみがえって、お弟子たちの弱さも罪もすべてを赦し、そしてイエス様の新しいいのちを与えてくださったのです。さらにそのいのちを用いるようにと使命を与えて大切な働きに信頼をして遣わしてくださいました。弟子たちはイエス様の救いを、出て行ってすべての人に知らせるように、父と御子と聖霊の御名によって洗礼をさずけて、イエス様の教えてくださったことをみんなに教えるように、と使命を与えて遣わしてくださいました。

あなたは毎日の生活の中で、救い主であり主であるイエス様、わたしはあなたのもので、今、ここに来てください、と祈ることができます。そしてそれが、待降節に覚えたいこと、いつも目を覚まして、いつ主が来てくださってもよいように用意をして待つことなのです。食事のときに、朝夕寝床の中で祈る方は多いでしょう。しかし、友人と話しているとき、家族でいるとき、仕事や勉強をしているとき、くつろいでいるときに、救い主であり主であるイエス様、わたしはあなたのもので、今ここに来てください、と祈ります。そうです、イエス様は実は既に来てくださっています。しかし、あなたのところにもイエス様が来てくださるようにお祈りするのです。聖霊はあなたが今聞いておられるみ言葉を通してお働きくださり、罪深い私たちが神様の恵みによって赦され、イエス様を信頼する新たないのちに歩ませてくださいます。

待降節が始まりました。年末の用意などいろいろなことで心が騒ぎます。その中でこの一週間、神様はあなたが変えられてあなたの周りが変えられるように、あなたが人々とともに幸せを作るように、愛と誠実さに生きていくことができるように、また、そのようにしてやがて見える姿で再び来てくださるイエス様を待ち望むように、あなたの祈りを実現させてくださいます。

だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。マタイによる福音書 24 章 44 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### **讃美歌 294 番 献金 献金感謝の祈り**

- 1 み恵み ゆたけき 主の手にひかれて この世の旅路を 歩むぞ うれしき  
※ たえなる み恵み 日に日に 受けつつ みあとを行くこそ こよなき幸(さち)なれ
- 2 寂しき 野べにも 賑わう 里にも 主ともに いまして われをぞ 導く ※
- 3 けわしき 山路も お暗き 谷間も 主の手にすがりて やすく過ぎまし ※
- 4 世の旅 果てなば 死のかわなみをも 恐れず超えゆかん み助け たのみて ※ **アーメン**

### **主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### **頌栄：讃美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

### **祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

### **後奏**